

年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成27年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第30回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第8回JART・JSRT合同学術セミナー、第74回定時総会・第75回総会（臨時）などに出席し、本会の考え方を説明しご理解を頂いてきたところです。

さて、昨年のG7はベルギーのブリュッセルで開催され、外交政策としてウクライナ問題、東アジア情勢（航行・飛行の自由）、北朝鮮問題、アラブ問題（シリア・リビア・イスラム国）、世界経済情勢としてTPP・日EU・EPA交渉の早期妥結、世界経済の堅調な成長に向けた構造改革、エネルギー・気候変動としてエネルギーが政治的な強制手段や安全保障上の威嚇として利用してはならない、京都議定書の有効期間が終わる2020年以降の温室効果ガスの削減目標の議論が行われた。いずれの課題も現在進行形で進んでおり、早期の解決が望まれています。

中でも、地球温暖化は人類が抱える大きな課題の1つであります。世界各国は自国の利益だけを求めるのではなく、自国民と他国民と一緒に平和に暮らせる世界をつくり上げていく努力をすべきであります。そのためには一人一人の人間が地球環境の保全のために、身近なところから、確かなところから、生活改善活動を行っていく必要があります。他人を変えることは大変難しいことではありますが、自分が変わるところから、自分が節約するところから、「もったいない」運動（ワングリ・マータイ）をするところから、始めることができると思います。

1963年8月28日、マーチン・ルーサー・キング牧師はワシントン大行進の演説の中で「I have a dream that one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave owners will be able to sit down together at the table of brotherhood.」と演説しています。あれから50年が過ぎても、いまだに人種差別が現存しています。世界の指導者は地球が抱えているさまざまな問題に対して「地球は1つ」「人類は1つ」という視点から、人種差別をなくし、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で世界平和の醸成に努めていただきたいと願うものです。

第186回通常国会で診療放射線技師法の一部が改正されました。新たに核医学画像診断装置を用いた検査、自動造影剤注入装置を用いた造影剤の血管内投与、抜針・止血、下部消化管検査時に肛門からネラトンチューブを挿入、放射線治療におけるIGRT時の肛門からのチューブの挿入・空気の吸引、技師法第26条第2項の中の胸部X線検診についてのみ医師の立会いなしで実施できるということになりました。今年はさらに課題となっている乳がん検診の医師の立会い、胃がん検診の医師の立会い、CTC検査の業務について新たなアンケート調査に基づいて、国民の健康増進の視点から、国民と協働しながら技師法の改正に向けて努力していきたいと思っています。

本会は真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点から業務拡大に関連する全国統一講習会を開催します。そして国民と協働し、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に育成し、社会的責任を遂行する所存です。皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。